浄法寺校の軌跡

～小さくともキラリと光る学校・キラリと光る生徒～

漆が結んだ絆

全校生徒22名が作成した、浄法寺特産の漆を塗った椀を、田野畑村役場　復興対策課へ寄贈しました。（2013年2月）

現在、その椀はNPO法人「田野畑村・たのはたネットワーク」にて、復興作業に携わる皆様に使って頂いています。復興への願いが込

岩手県北部高等学校浄法寺校
生徒会長　[illegible]　様
生徒一同　様

拝啓　冬の寒さが厳しいこの頃ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

この度、生徒さん手作りの漆塗り椀をご寄贈いただきまして誠にありがとうございました。

2月17日(日)に松浜番屋再生プロジェクトでお世話になりました。ボランティアの方々と一緒に作業を行いました。この時の経験でダメ出しを行ったので、早速ご寄贈いただいた漆塗り椀を使わせていただきました。同封の写真はその時の様子です。復興に向けて、地の修復作業や廃棄物の処理工事などの工事が進んでおります。松浜番屋好も年内には何棟か完成の予定です。松浜番屋が完成した暁にはご寄贈いただいた漆塗り椀を体験プログラムの中で使わせていただきたいと思います。まだまだ復興工事はこれからも続いていきますので、何卒こちらにお越しいただいて復興していく様子を見て頂ければ幸いです。

まだまだ厳しさが続く時期が続くと思いますが、何卒におかれましては風邪やインフルエンザなど、お体にお気をつけて充実した学校生活を送ごしください。

まずは寒中ながらまして御礼を申しあげます。

平成25年2月21日　敬具

NPO法人
田野畑村・たのはたネットワーク

第90回 全国高校野球 岩手大会 第1日

第90回全国高校野球選手権岩手大会第1日は10日、盛岡市の県営球場で1回戦2試合を行った。開会式直後の開幕試合は、福岡・浄法寺が11―1の五回コールドで花巻農を下し、分校になって初出場の夏大会を白星で飾った。

昨年秋4強の軽米は11―4で水沢農に八回コールド勝ちした。軽米の長井貴寛（2年）が五回に今大会第1号となる本塁打を左翼席に放った。

第2日の11日は、花巻市の花巻、金ケ崎町の森山総合公園、八幡平市総合運動公園の3球場を加えた県内4会場で1回戦12試合を行う。

きのうの勝敗

▽1回戦【県営】

福岡・浄法寺 11―1 花巻農（五回コールド）

軽米 11―4 水沢農（八回コールド）

福岡・浄法寺 猛攻11点

花巻農、投手陣崩れる

花巻農―福岡・浄法寺　2回裏福岡・浄法寺1死満塁、佐藤亙の中前打で3走田口頌（2）に続き2走三浦智も生還。3―0とリードを広げる。捕手浅沼＝県営

県営球場

◇1回戦▽第1試合

花巻農 0010 0
福岡・浄法寺 0340 4×
11

（五回コールド）

（花）照井健、三上―浅沼
（福）三浦智―田口頌

▽三塁打　三浦圭（福）
▽二塁打　田口頌（福）

【評】福岡・浄法寺打線が集中打で得点を重ね、花巻農を圧倒した。二回一死一、三塁から三浦智の一、二塁間の内野安打で先制し、佐藤亙の中前打で2点を追加。三回は田口頌の右越え二塁打など打者9人の猛攻で4点を挙げて突き放した。

花巻農は三回に小野寺のスクイズで1点を返したが、投手陣が踏ん張れなかった。

【花巻農】		打	安	点
⑤	平賀	2	2	0
③	小野寺	0	0	0
②	佐々木弥	1	0	0
9	阿部	0	0	0
⑦	佐々木幸	2	0	0
⑧	平方	2	0	0
④	天良	2	0	0
②	佐々木沼	1	0	0
⑥	浅池	2	0	0
①	菊地	2	0	0
1	照井健	0	0	0
	三上	1	0	0
	計	13	3	1

【福岡・浄】		打	安	点
④	佐藤亙	3	2	2
⑥	橋口	2	1	0
⑨	姉帯勇	2	2	0
③	佐藤龍	3	2	0
⑤	三浦圭	4	2	3
⑧	蛇口	2	1	1
①	田口頌	2	2	1
①	三浦智	2	2	1
⑦	田口義	2	1	1
	計	24	13	11

	振	球	犠	盗	併	残	失
花巻	2	2	3	0	0	2	1
福岡	2	6	3	6	1	9	0

▽球審　飛沢▽塁審　小野寺昭、佐藤浩、池田
▽試合時間　1時間13分

分校初の夏飾る

福岡・浄法寺

分校となって初めて夏大会に挑んだ福岡・浄法寺が圧倒的な攻撃力を見せつけて「初陣白星」をつかんだ。

伊藤崇監督が「狙い球を絞って思い切っていけ」と指示した通り、選手は鋭いスイングで13安打11得点。持ち前の積極性で、開幕試合のプレッシャーも打ち砕いた。

五回一死満塁で走者一掃の右越え三塁打を放った三浦圭太主将（3年）は「ベンチの雰囲気がよく、落ち着いて打席に立てたのが大きい」とチーム一丸の勝利を強調した。

先発三浦智和（2年）は先制内野安打を放ち、投げては5回を被安打3、1失点の好投。「自分で1点目が取れて、投球に集中できた」と笑顔を広げた。

次は、県内屈指の左腕菊池雄星（2年）を擁する第1シードの花巻東戦。学校の七夕飾りに「雄星と対戦したい」と書いた三浦智は「花巻東戦ではもっと制球を重視して低めに投げたい」と気合を入れ直した。（村上）

岩手日報　平成20年7月11日　掲載

例大祭前に 二戸 天台寺清掃

福岡高浄法寺校

二戸市の福岡高浄法寺校（小柴喜治校長、生徒八十四人）の生徒は一日、地域が誇る名刹・天台寺の境内や参道を清掃した。同寺の例大祭（五日）を前にした恒例行事。

一年生十九人が参加。境内や参道のごみを拾ったり、落ち葉をかき集めるなどした。参加した宮沢篤玄君は「全国的にも有名な、地域にとって誇りの場所。きれいな環境で気持ちよく参拝してもらいたい」と話していた。

天台寺の参道を清掃する福岡高浄法寺校の生徒

岩手日報　平成20年10月4日　掲載

浄法寺漆 伝統次代へ

二戸・苗木200本を植樹

二戸市、県浄法寺漆生産組合（佐藤春雄組合長）は二十五日、同市浄法寺町の市地域活性化センター周辺で、漆苗木植樹祭を開いた。十一月十三日の「うるしの日」にちなんだ恒例行事で、今年で二十一年目。

植樹祭には組合員や市関係者、福岡高浄法寺校の一年生、創立五十周年記念事業として二戸市商工会青年部メンバーら約百人が参加。佐藤組合長は「大きな木になるよう心を込めて植樹してください」と呼び掛けた。

参加者は、明治神宮（東京）でおはらいを受けた十本を含む苗木約二百本を植樹した。十五年ほどで生漆が採取できるまで成長する。

福岡高浄法寺校の生徒は今年、漆塗りなども体験。漆田武君は「植樹した苗木が立派に育ち、浄法寺漆の日本一の歴史が続いてほしい」と願いを込めた。

生産量日本一を誇る浄法寺漆の今年の生産量は、今月十日までで約1230キロと九年ぶりに1トンを超えた。

植樹祭で、心を込めて漆の苗木を植える福岡高浄法寺校の生徒

岩手日報　平成20年11月27日　掲載

2009年(平成21年)3月11日　水曜日　12版▲　第2岩手　30

福岡高・浄法寺校相撲部

部員ただ1人 存続の危機

がっこう拝見

教育&スポーツ

外に積もる雪で静まりかえった相撲道場に、砂を足でする音と、肉体のぶつかり合う音が響く。はあはあと荒い呼吸に重なる「腰が高い。肩の力抜け」の声。1人しかいない部員と顧問のぶつかりげいこだ。

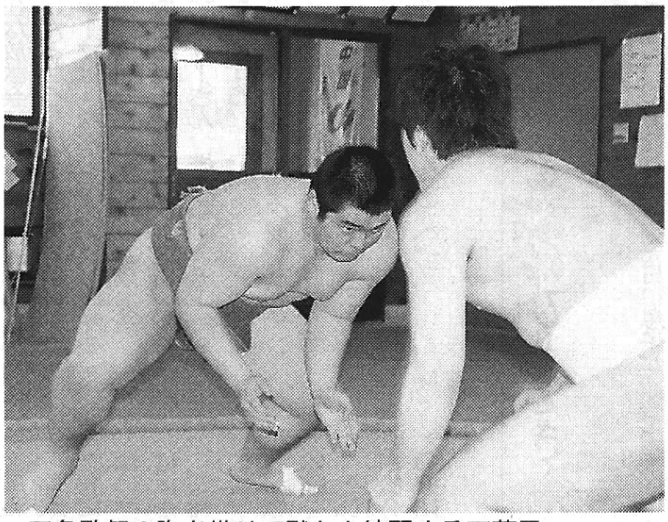
今年で創部32年の二戸市浄法寺町の福岡高校浄法寺校（旧浄法寺高校）相撲部。かつて県民体育大会13連覇を果たし、県出身で唯一の関取だった栃乃花関（現二十山親方）が巣立った名門校は、ここ数年で部員数が減少。05年度の6人から、07年度は2人に。昨年6月から1人になった。

OBでもあり06年に赴任した三角裕介監督(25)は、「以前は青森や沿岸からも能力の高い子が入ってくる有名校だったのだが……」と振り返る。

背景にあるのは、相撲人気の低迷という。三角監督は「体と体がぶつかる激しい練習でけがが多く、高校生になって相撲をやりたいという子は、なかなかいない」。県内で他に相撲部があるのは平舘と盛岡農のみで、「県内の高校生の相撲人口は20人ぐらい」という。

練習がきつい上、先輩が厳しいといわれる相撲部屋のイメージが広がり、敬遠されやすいと三角監督はみる。

唯一の部員、工藤大輔君（2年）は、174センチ、115キロの体格を生かそうと、高校から始めた。大会前は毎日3～4時間、オフシーズンでも週6日と、ほぼ毎日、四股やまた割り、ぶつかりげいこや筋肉トレーニングといった厳しい練習をこなしている。



三角監督の胸を借りて黙々と練習する工藤君（左）＝二戸市浄法寺町の福岡高校浄法寺校

「大会前とか、きつくて自分にできるかと思ったけど、やりきったときの達成感や勝ったときのうれしさはとても強いです」

三角監督は相撲の魅力を、「自分の体一つで、一瞬の勝負にかけるところ」と話す。自身も小学校で始め、大学でも相撲部に所属。「特に（旧）浄法寺町は盛んで、今も秋祭りでは奉納相撲がある。せめて県北には相撲を残したい」と、思いは強い。

だが、今春新入部員が入るかどうかは、今のところわからない。同校の09年度入学出願者は、定員40に対し20人。福岡高校との統合のうわさもある。それでも三角監督は「生徒は少なく、厳しいが、何とか団体戦出場の最低人数である3人は確保したい」と意気込む。

工藤君は「相撲ががんばって続けられて、相撲が好きな人が入ってほしい」。後輩の入部を心待ちにしながら、体格を使って押す得意のスタイルを磨き、転びやすい課題を克服するためウエートトレーニングに励むなど、練習を積んでいる。

朝日新聞　平成21年3月11日　掲載

「恋は永遠？」質問次々と

浄法寺小学校での「授業」のあと、近くの浄法寺文化交流センターで開かれた「まちのオーサー・ビジット in 二戸」。岩手県立福岡高校浄法寺校と、二戸市立浄法寺中学校の生徒や保護者、公募の市民ら、約400人が詰めかけた。

「ただの優等生であることはつまらない。私は、そう思います」。瀬戸内さんは若者たちに語りかけた。「何でもこなす優等生より、誰にも負けないほど好きなもの、得意なものを一つ持っているほうがいい」。自らの経験を交えつつ「若いうちの傷はすぐ癒える。好きなことを貫くためにはあえて苦難の道を選んで」とも。

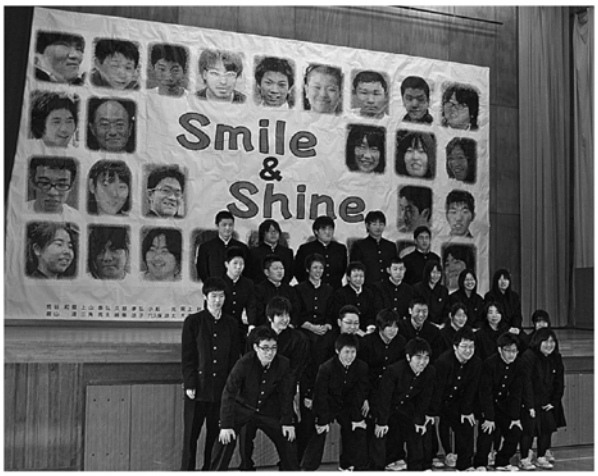
瀬戸内さんの波瀾万丈の人生を知ってか生徒からは「恋と愛の違いは？」「恋は永遠ですか」と質問が相次いだ。

「恋は仏教では『渇愛』と言う。愛するだけでは足りず愛されることを求めるのね。仏教で『慈悲』と呼ぶのが愛。見返りを求めません」「恋は残念だけど永遠じゃないわね。アメリカでは長くて4年と言います。私は2年だと思う」――巧みな答えで聴衆を魅了した。

朝日新聞　平成21年10月30日　掲載

卒業生に感謝のモザイク画

二戸市の福岡高浄法寺校1、2年　全校生徒描く



巨大なモザイク画の前で記念撮影する福岡高浄法寺校の生徒

二戸市浄法寺町の福岡高浄法寺校（佐々木龍孝校長、生徒27人）は27日、同校で予餞会を開き、全校生徒の顔を描いた巨大なモザイク画を披露した。後輩からの感謝の気持ちを示した小規模校ならではの贈り物に、卒業生は感激した様子を見せていた。

モザイク画は紙を貼り合わせた作品で縦4メートル、横8メートル。1センチに満たない正方の升目を赤と黒で一つ一つ塗りつぶし、全校生徒27人と佐々木校長を表した。

1、2年生は昨年12月中旬から、休み時間や放課後を利用して制作した。2年の舘山凌君は「驚き、喜んでもらいたかった。感謝の気持ちを込めて作った」と出来栄えに胸を張った。

同校の全校生徒は2008年度の86人から年々減少し、12年度は27人。これまで予餞会では、歌や劇などを披露してきたが、生徒が少なく、同日は1、2年生が卒業生のために食事を作って振る舞った。

千葉治副校長によると、生徒は学校行事に意欲的に参加し、遅刻や早退もほとんどないという。かるた大会や焼き芋大会など小規模校ならではの活動も盛んだ。

3年の勝又理恵さんは「ソフトテニス部で後輩たちと仲良くできて楽しかった。人数が少ないからこそできた行事がいっぱいあり、今では良かったと思う」と振り返った。

千葉副校長は「一人一人を大切にし、学校に来ることが楽しいと思える、地域に信頼される学校づくりをしたい」と抱負を語る。

岩手日報　平成25年2月28日　掲載